

【松村主宰の俳句】

病 葉

松村五月

初恋や白玉のどを通るとき
つらつらとたどっていけば夏の雲
七月の乙女ら首を長くして
病葉をあつめる愛の終らぬよう
行き先は夏の天空二人乗り
これからのことはひとまず西瓜切る
風を聴く耳持ち夏のど真ん中
果てしなき夜のはじまり黒葡萄
かなかなかな心のこりのあるごとく
習志野を染める夕焼け父老いる